



ふれあいネットワーク

広川町

社協だより

発行 社会福祉法人広川町社会福祉協議会 TEL (0943) 32-3768
広川町大字新代 2165 番地 1 FAX (0943) 32-5530

社協マークの意味

社会福祉および社協の「社」を図案化し、「手を取りあって、明るいいあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

※携帯のカメラで読みとってください
広川社協ホームページ QR コード
QR → <http://hirokawashakyou.jp>



デイサービスにかわいい訪問者♡

拍手と握手でお出迎え!



10月30日(金)町内の子ども達がハロウィンの仮装をして、本会のデイサービスに遊びに来てくれました♡

部屋の真ん中を大行進!その後“どんぐりころころ”の歌を元気な声で歌ってくれました。

また、広川町の町おこしマスコットキャラクター広川まち子ちゃんも会いにきてくれました。皆さん拍手と握手で熱烈歓迎♡

思いがけないかわいい訪問者に目を細めて喜んでいました。



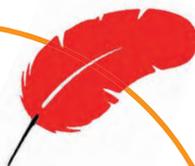
この「社協だより」は、共同募金の配分金によって作成したものです。

赤い羽根共同募金は、 じぶんの町を良くするしくみです。

赤い羽根共同募金は、お互いが「支えあい」「助け合う」地域づくりを進めていくため、高齢者のサロン活動や子どもたちの遊具の整備、災害時のボランティア活動支援等、様々な地域福祉を支える民間の福祉活動に活用しています。共同募金は身近で生きる募金です。



赤い羽根



〔赤い羽根共同募金〕
1947年に、市民が主体の取り組みとしてスタートした歴史と実績のある全国的な募金運動です。当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に、資金支援する活動としての機能を果たしてきました。その後、社会福祉事業法（現行社会福祉法）に基づき、社会福祉事業の推進のために活用されてきました。

じぶんの町

〔じぶんの町をよくする活動〕
集まった募金の約75%は、募金をいただいた地域で使われています。さまざまな地域福祉の課題解決に取り組み、民間団体を支援する仕組みとして、また、市民のやさしさを届ける運動として展開されています。残りの25%は、みなさんの住んでいる市区町村を含む広域的な課題の解決、災害時の備えのために活用されています。

わたし



〔その町に住むわたし〕
あなたの募金が、じぶんの町を住みやすい町にしていきます。あなたの近くで困っていた人を笑顔にしてくれます。そのうれしい気持ちがまた赤い羽根につながっていくと、大きな輪ができていきます。

◆都道府県を単位に実施

赤い羽根共同募金は、都道府県を単位として、毎年10月1日から12月31日までの3か月間、日本中で募金活動が行われています。

◆赤い羽根共同募金運動の展開方法（広川町の場合）

共同募金運動は自治会・町内会、民生・児童委員、企業や学校関係者、社会福祉関係者などの協力により展開されています。

- ◇ 戸別募金 … 地域の各家庭に募金を呼びかけます。
- ◇ 街頭募金 … 街角や人の集まる場所で募金を呼びかけます。
- ◇ 法人・企業募金 … 地域の各法人・企業に募金を呼びかけます。
- ◇ 職域募金 … 地域の組織や企業で働く方々に職場での募金を呼びかけます。

◆赤い羽根共同募金の活用

各都道府県にお寄せいただいた募金は、都道府県ごとに配分委員会の審査を経て下記の通り配分されます。

約 75% (地域配分 B 枠) 各市町村を区分とした配分

●広川町社会福祉協議会活動事業費

- 高齢者福祉活動費
ひとり暮らし高齢者のつどい、合同金婚式、老人クラブ活動費、ふれあいいいききサロン支援事業
- 障害児・者福祉活動費
身体障害者活動推進費、心身障害児者父母の会活動推進費、聴覚障害者支援事業
- 児童・青少年福祉活動費
福祉教育推進事業、青少年健全育成事業、母子・父子親子招待会、母子寡婦福祉会活動費、子どもの遊び場整備事業
- その他
福祉情報発信事業、ボランティア活動センター事業、ボランティア活動費、愛のネットワーク事業、地域福祉活動計画策定事業

約 25% (広域配分 A 枠) 県内の社会福祉施設などの配分

●県下全域を対象とした民間福祉のための配分

- 近年の配分例
児童養護施設…車両整備
知的障害者入所更生施設…施設改修工事
福祉団体…機関紙発行等

●共同募金活動推進費

- 募金資材
- チラシ代他

共同募金会が行う災害復興支援

●災害等準備金

共同募金会に寄せられた募金の一部を「災害等準備金」として積立。災害時に、被災地の災害ボランティアセンターの活動費等として活用。

◆助成を受けた団体からの「ありがとうメッセージ」

中央共同募金会に寄せられた「ありがとうメッセージ」を通じ、募金によって支えられている物語の一部をご紹介します。

事業名：広島市豪雨災害の被災者支援

～災害ボランティアセンターの運営を支援～

団体名：広島県・(社福) 広島市安佐北区社会福祉協議会



平成 26 年 8 月の豪雨により、土石流や崖崩れなど近年まれにみる大規模な土砂災害が発生し、多くの尊い命が犠牲となり、被災された方々は避難生活を余儀なくされました。広島市安佐北区社会福祉協議会では、発生から 3 日後には災害ボランティアセンターを立ち上げ、ボランティアの受け入れを始めました。災害ボランティア活動には、大量のスコップや一輪車等の資材が必要になります。これらの資機材の購入や災害ボランティアセンターの運用のための費用を共同募金会に支援してもらいました。おかげさまで、安心して多くのボランティアを受け入れることができ、被災した家屋の泥出しや片付けなど復旧に向けて多くのボランティアが活動することができました。



親子招待会を開催♡

～ソーセージ作り体験・カステラ工場見学～



広川町社会福祉協議会では、年に1度、町内の母子・父子家庭を対象に、「親子招待会」を開催しています。

今年は、8月22日（土）に26名の参加のもと、長崎県大村市への日帰り旅行を実施いたしました。『おおむら夢ファーム シュシュ』でソーセージを作り、その後『カステラの心泉堂』工場を見学しました。ソーセージ作りは、ミンチ肉を羊腸につめる工程から、大きな釜でポイルするところまでを、スタッフさんの指導のもとに体験しました。新鮮なこだわり素材を使い、親子で愛情をこめて作ったソーセージの味は、一段と美味しかったのではないのでしょうか♡

親子で共有できる夏の思い出として、皆様の心に残る1日になっていたらと思います。

ひとり暮らし高齢者のつどい

～地域と関わるきっかけに～



つどいは、町内70歳以上のひとり暮らし高齢者の方を対象に実施しているもので、今年は10月16日（金）に、佐賀県上峰町吉野ヶ里温泉において開催し、134名の方にご参加いただきました。

日頃閉じこもりがちな、ひとり暮らしの高齢者が一堂に集い、行政区を超えて町内の皆さまと交流をされることで、孤立感を和らげ、仲間づくりを図ることを目的に開催しています。

語らいながら食事をされた後、お笑い大衆演芸「いろは座新鮮組」による迫力あるステージを楽しめました。今回の交流をきっかけとして、参加された皆さまが、相互の交流を深めながら、いつまでも地域で楽しく生きいきと暮らしていかれまことを願っています。

尚、ご協力をいただきました 広川町民生委員・児童委員の皆さまには、心から感謝申し上げます。

第37回合同金婚式を開催!!

～夫婦そろって50年、38組を祝う～

10月28日（水）広川町合同金婚式を、料亭扇屋において開催いたしました。今年は昭和41年に結婚をされた、38組のご夫婦（以前の方で都合により参加されていないご夫婦含む）が出席されまして、これまでの苦楽を思いながら結婚から50年の節目をお祝いしました。

ご夫婦揃っての写真撮影、記念式典の挙行、演芸では広川町文化連盟各舞踊部の皆さまにご協力をいただき、華やかな祝賀会となりました。

また、祝宴では日向ひょっとこ踊りボランティア「たのしむ隊」の皆さまから、ユーモアあふれる踊りをご披露いただき、楽しいひとときを過ごされました。

金婚夫婦を代表して高鍋具弥さんと文子さんが、「生活そのものも上を向いていた時代でしたが、一生懸命仕事に励んできました。今日の日を感謝し、これからも手を取り合って歩いていきます。」と謝辞を述べられました。



平成 27 年福岡県社会福祉大会

～県知事感謝状、優秀地区表彰 受彰～



平成 27 年 10 月 23 日（金）春日市クローバープラザにおいて、福岡県社会福祉大会が開催されました。社会福祉大会は県内の社会福祉関係者が一堂に会し、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、「誰もが安心して暮らすことのできる元気な地域づくり」に取り組んでいく契機として、また、多年にわたって社会福祉の推進に貢献された方々の表彰を目的に開催されるものです。

広川町では、草場区サロン「ほのぼの会」が、地域福祉の向上に貢献された人・団体に贈られる「社会福祉功労者県知事感謝状」を受彰されました。また、共同募金会広川町支会が、平成 26 年度の共同募金運動に対して贈られる、「共同募金会優秀地区表彰」を受彰いたしました。

誰もが安心して暮らせる町をめざし、広川町の福祉関係者が連携し、地域の福祉課題に向けて取り組むことの必要性を改めて感じる大会となりました。

広がる“エコキャップ運動”

～暮らしの中にあるボランティア～

広川町ボランティア活動センター“よかよか”では、誰でも気軽にできる収集ボランティア活動の一環として、ペットボトルのキャップ（エコキャップ）の収集運動を推進しています。

地域の皆さまにも日頃から温いご協力をいただいております。10 月に入り、株式会社ロキテクノ様、広川中学校様に 1 年かけて集められた沢山のキャップをご持参いただきました。ありがとうございました。

何気なく捨てているキャップでも分ければ資源となり、集めてリサイクルすることで、二酸化炭素の発生抑制に繋がるとともに、様々な福祉活動にもつながっています。



エコキャップ回収ボックスは、広川町保健・福祉センターはなやぎの里の 1 階玄関と 2 階ボランティア活動センター入り口に設置しております。

広川町地域福祉活動計画の策定について

～団体インタビュー・住民福祉座談会の実施～



昨年度、広川町において、町の福祉の現状や、地域住民・福祉団体の地域福祉に係る意識とニーズ、施策展開の基本方針が盛り込まれた「広川町地域福祉計画（第 1 期）」が、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 力年計画として策定されました。

これを受けて、本年度、社会福祉協議会では、地域住民・各種福祉団体・ボランティア団体・福祉関係機関が、相互に協力・協働して取り組む、地域福祉推進の具体的な行動計画（アクションプラン）としての「広川町地域福祉活動計画」の策定に向けて、策定委員会を立ち上げて取り組んでいます。策定の過程では、地域の生活課題・福祉課題を地域の皆様と共有し課題解決に向けて取り組むため、団体インタビューや住民福祉座談会を実施しています。

この広川町地域福祉活動計画は、地域住民・福祉関係機関の皆様とともにつくる「ふくしまちづくり」を実現するための計画として、平成 28 年度から平成 32 年度の 5 力年計画として策定しています。



いきいき元気教室 の活動をご紹介します♪

恒例 秋のバスハイク



毎年この時期 お弁当を持って黒木町に出かけます。グリーンピア八女の売店で農産物や特産物を買いました。地元の方が丁度持って来られた生椎茸が大人気でした。

ふじの里でお弁当を食べ、駅前まんじゅう屋さんで肉まんや栗饅頭など買いました。

紅葉はまだ色づきはじめてですが、好天に恵まれポカポカ陽気で『楽しかったあ〜』と皆さんに喜んでいただきました。

次はどこにでかけましょうか。



ふれあい橋渡り初め

『かわいかねえ〜』

「交流センターいこっと」と「はなやぎの里」をつなぐ『ふれあい橋』が開通しました。

早速渡り初めをし、子育て支援センターに来られていた方々とふれあいました。



心も体も元気を保ちませんか？ 参加される方をお待ちしております。

《問い合わせ先》

社会福祉協議会 0943-32-3768

広川町役場 0943-32-1113

認知症講演会

久留米大学高次脳疾患研究所の森田喜一郎教授に来ていただき、2回シリーズで認知症のお話をしていただきました。方言や冗談を交えたお話にみなさん笑い声があがり、アンケートにも『楽しく話が聞けました』と好評でした。

2月にも同じ内容で予定していますので、是非参加されてください。詳細は1月に回覧板にてお知らせします。事前申し込みが必要となります。



認知症地域支援推進員

認知症になっても住み慣れた家で・地域で笑って暮らし続けるために、認知症について正しく知っていただく活動をしています。

今年度は、11月までに老人クラブや地域サロンなど10団体で認知症の出前講座を開きました。



認知症についてや認知症の予防について **出前講座**をいたします。

認知症サポーター養成講座も行います。

お気軽にご依頼ください

在宅介護支援センター 0943-32-1175



介護をしている家族のための介護講座

～介護を支え助ける介護の工夫と、介護者同士の交流～



「介護の悩みは なかなか話しにくい…」

「介護でわからないことは 誰に聞けばいいんだろう」

介護をされている皆さんの中には、介護の悩みやわからないことを抱えながら介護をされている人も多いのではないのでしょうか。現在介護をしているお方、これからの生活に備えるお方、“これからの介護”のヒントを一緒に考えてみませんか。どなたでも参加できますので、ぜひ、ご参加ください。

開催日時	テーマ
12月7日(月) 13時30分～15時00分	「認知症ケア～その人らしく生きるために～」
1月18日(月) 13時30分～15時00分	「QOLの向上のための生活支援 ～癒し癒されるケア～」
2月8日(月) 13時30分～15時00分	「ストレスケア～家族の健康」

※講座修了後は、講師を囲んで介護者同士の交流をする、「介護者カフェ」を開催します。

(自由参加)

【会場】 広川町保健・福祉センターはなやぎの里

【参加費】 無料。関心のある回のみ参加も可能です。事前にお申し込みをいただくと助かります。

【講師】 真宗大谷学園 九州大谷短期大学の先生

◆問合わせ・申し込み先／広川町社会福祉協議会 TEL0943-32-3768

“介護者カフェ” 開催中♡

介護者カフェは、ご家族で介護をされている皆さまのための、ひと休みカフェです。

介護の合い間に、ちょっと肩の荷を下ろして、同じ介護者同士でお茶を飲みながらひと休みしませんか。

また、介護者カフェでは、介護の相談員による相談も行ってあります。

●平成 27 年度スケジュール(12 月以降)

- 12月21日(月)
- 1月25日(月)
- 2月29日(月)
- 3月28日(月)



【会場】 保健・福祉センターはなやぎの里
1階 休憩室

【時間】 14時から

【対象】 ご家族等の介護をしている方。
介護経験者の参加も大歓迎！

【参加費】 無料

●お問合わせ先

広川町社会福祉協議会・家族介護者の会なのはな会
(Tel)0943-32-3768 (fax)0943-32-5530

平成 27 年度ひろかわ健康隊 養成講座を開催しました！



ひろかわ健康隊は、地域の方々の健康・生きがいづくり、高齢者の介護予防の取り組みを支援・推進するボランティアメンバーです。本事業は、平成 24 年度から実施しているもので、4 年目となる今回は 30 名の方が新たにメンバーとして加わりました。

講師に大川市レクリエーション協会副会長の甲鶴子氏を迎え、身近にあるものを使った脳トレやゲーム、音と楽器のチカラで自然と体を動かすことができるミュージック・ケア等、毎日の中で取り入れられる体操・レクリエーションを 4 回シリーズでご指導いただきました。

受講された皆さまが、講座修了後も、明るく・生きがいのある地域づくりの推進役として、広川町で活動されますよう、フォローアップ研修の実施を予定しています。



〈香典返し寄付へのお礼〉

平成 27 年 7 月 10 日～平成 27 年 11 月 9 日

社会福祉協議会へのご寄付をいただきました。ご芳名を紹介させていただき、ご厚意に深く感謝申し上げますと共に、故人のご冥福を心からお祈り致します。

住 所	氏 名	故 人
智 徳	綾戸 秀則	ミチ子
智 徳	佐藤 尚美	山下快江
当 条	野田善士郎	マスエ
扇 島	郷田サチ子	瑞 治
久 泉	馬場 房子	昭 吉
当 条	井上 次好	禎 久
牟 礼	庄箆 勝昭	セツ子
久 泉	野口美枝子	直 裕
吉常上	中村 房子	利 弘
六 田	鹿田タマ子	茂 記
梯	山下 敏彦	高松武重
吉常下	中村与一郎	テル子
古 賀	山口 眉美	虎 幸

住 所	氏 名	故 人
川 瀬	守松 良雄	節 代
増 永	石井 宏和	ヒサエ
清楽茶屋	梅本 雪子	次 男
北新代	井上 芳江	甲太郎
久 泉	馬場サツキ	國 男
川 瀬	蒲池 承英	英 榮
梯	野中 稔	ミサエ
吉常下	坂田 務	キミエ
内 田	中島 享子	政 子
川 瀬	丸山 真一	美代子
吉常上	丸山 久之	順 子
長延下	立山奈津美	清 高

“車いす” 貸出ししています！

広川町社会福祉協議会では、日常生活を行う上で車いすを必要とする方に対し、**車いすの無料貸出し**を行っています。



●貸出しの対象となる方

- 広川町に在住の方。
- 介護認定を受けている方で、旅行・通院時の、一時的使用の場合は貸出し可能。
※介護保険制度で車いすレンタルの対象となる方で、かつ日常生活において常時車いすを使用される方は、この貸出しの対象となりません。

●利用の仕方

- 広川町社会福祉協議会の窓口で、申請書をご記入ください。その場で車いすの貸出しをいたします。
※印鑑や身分証明書などは不要です。
※申請書は本会のホームページからも、ダウンロードできます。

●貸出し期間

- 貸出し期間は、原則一ヶ月以内です。
※必要な場合は、利用更新が可能です。更新される場合も窓口での手続きをお願いしています。

●お問い合わせ先

広川町社会福祉協議会（総務・地域福祉係）
(TEL) 0943-32-3768 (fax)0943-32-5530

「はなやぎの里」の施設使用料

施設区分	施設使用料（1時間）		冷暖房使用料（1時間）
	町内者	町外者	
多目的ホール（3階）	1,200円	2,400円	1,000円
調理実習室（2階）	700円	1,400円	600円
会議室（2階和室）	300円	600円	200円
会議室（2階洋室）	300円	600円	200円
休憩室（1階和室）	1人1回 100円 (入浴料含む)	1人1回 200円 (入浴料含む)	

◎問い合わせ

保健・福祉センター「はなやぎの里」
☎ 0943-32-3768